

《国語科における授業改善推進プラン》

I 国語科における平成30年度授業改善推進プランの検証

〈取り組みにおける成果と課題〉

- 低 ◎ 発表の機会を多く設けたり、朝のスピーチの時間を活用したりしたことで、話す事柄を順序立てながら話すことができるようになった。
- ◎ 短作文を通して、自分の考えたことや感じたことを短い文で表せるようになった。
- ◎ とめ・はね・はらいに気を付けて字を書くことができるようになった。
- ◎ 朝読書や読書週間、読み聞かせなどを経験することで、様々な種類の本に興味をもち、意欲的に読書をするようになった。
- ▼ 文章の内容を的確に押さえながら読み取らせる指導が必要である。
- ▼ 字形や書き順が正しくない児童がいる。文章の中ですすんで既習漢字を使っていない。
- ▼ はっきりとした大きな声で、相手に伝わるように話す指導や、大事なことを落とさないように聞き取らせる指導が引き続き必要である。
- ▼ 自分の考えが明確になるように、順序を考えて繋がりのある文章を書くことが不十分である。また、句読点や「」の使い方がまだ十分に身に付いていない。
- ▼ 視覚に訴える本を好んで読む傾向にあり、活字離れが懸念される。
- 中 ◎ 相手に自分の考えたことや意図が伝わるよう意識させ、話す順序を考えたり文章にして確かめたりする指導をしたことで、筋道を立てて話す力が伸びた。
- ◎ 朝読書や読書週間、読み聞かせなどの経験から、登場人物の心情や場面についての描写などを味わいながら読む力が伸びた。
- ▼ 文章の内容や段落の要点を的確に押さえながら読み取らせる指導が必要である。
- ▼ 字形や書き順が正しくない児童がいる。文章の中ですすんで既習漢字を使っていない。
- ▼ 文章全体の構成を考えながら、書き方のきまりに沿って、読み手に分かりやすい文章を書く指導が必要である。
- ▼ ローマ字の習熟及び国語辞典の使い方などが曖昧になっている傾向がある。
- 高 ◎ 文章構成を考えて書き、自分自身や友達同士で推敲する習慣を身に付けさせた。そのことで、指定された長さで文章を書いたり、自分の意見と理由を区別して文章を書いたりすることができるようになった。
- ◎ 朝読書や読書週間、読み聞かせなどの経験から、登場人物の心情や場面についての描写などを味わいながら読む力が伸びた。
- ◎ 週一回程度の漢字ミニテストの積み重ねにより、漢字の知識技能が伸びた。
- ▼ 自分の考えを筋道立てて話したり、相手の意図を整理して聞いたりすることに課題のある児童がいる。
- ▼ 個人差が見られ、書くことに対して苦手意識をもっている児童は多い。また、自分の考えを明確にし、構成を考えて書く力はまだ十分とはいえない。
- ▼ 段落のまとまりを考えながら読むことや、叙述や心情を意識して読むことが苦手な傾向にある。

II 国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>1 話すこと・聞くこと ◎各学年ともに目標値を上回り、話の大切な部分を聞き取り、素早くメモできるようになっている。 ▼話の要点をまとめたり、自分の立場や意図をはっきりさせたりしながら、計画的に話し合うのがやや苦手な傾向がある。</p> <p>2 書くこと ◎目標値を上回る学年が多く、指定された長さで意見と理由を区別して文章に表すことができるようになっている。 ▼文章構成を考え、指定された長さで内容を具体的に書くことに課題のある児童もいる。</p> <p>3 読むこと ◎各学年ともに目標値を上回り、登場人物の心情や場面についての描写などを味わいながら適切に読み取ることができるようになっている。 ▼説明文において、段落のまとまりを考えながら読み取り、要点をまとめるのは苦手な傾向にある。</p> <p>4 言語事項 ◎漢字の書き取りでは、目標値を上回る学年が多い。 ▼漢字を読むことや言葉の意味・使い方に課題のある児童が多い。 ▼ローマ字を読むこと・書くことに対して苦手意識をもつ児童が多く、目標値を大きく下回っている。</p>
観点別結果の分析	<p>1 国語への関心・意欲・態度 ◎学年によるが、国語への関心・意欲・態度はやや高い傾向にある。</p> <p>2 話す・聞く能力 ◎朝のスピーチなどを通して、伝えたいことを分かりやすく話す力、要点を聞く力が少しずつ育っている。 ▼考えたことや伝えたいことなどを的確に話したり相手の意図をつかみながら聞いたりすることは、まだ十分とはいえない。</p> <p>3 書く能力 ◎5・6学年は目標値を上回っている。 ▼4学年は目標値を下回り、文章構成を考え、指定された長さで内容を具体的に書くことに課題のあると言える。</p> <p>4 読む能力 ◎平均正答率や目標値をどの学年も上回っていた。 ▼説明的文章の読解で、要旨や段落のまとまりを的確に押さえながら読む力が十分ではない。</p> <p>5 言語についての知識・理解 ◎5・6学年は目標値を上回っていた。 ▼4学年はローマ字や国語辞典の使い方の定着率が低い。</p>

III 調査結果に基づいた授業改善のポイント

<p>1 相手や目的・意図に応じて、内容を組み立てて話す力や、相手の意図をつかみながら聞く力が十分ではない。 → 考えたことや伝えたいことをメモにまとめ、自分の考えを筋道立てて話すことができるようにする。また、日頃から話を集中して聞く態度を養ったり、大切なことは要点を整理して、メモしたりできるようにする。</p> <p>2 相手や目的・意図に応じて、構成を考えて書く力が十分ではない。 → 自分の考えを筋道立てて文章に書くことができる活動を取り入れる。 → 相手や目的をはっきりさせて、自分の考えを筋道立てて文章に書くことができるようにする</p> <p>3 目的に応じて、内容を大きくまとめながら読む力が十分ではない。 → 段落のまとまりを意識し、大きく文章の構成を捉えたり、細かい部分の叙述を的確に読み取ったりすることができるよう指導する。</p>
--

→ 文章の主題や要旨、段落や場面構成や順序を踏まえながら読めるようにする。

4 既習の漢字や語句の使い方の定着が十分ではない。

→ 前学年までに学習した漢字やローマ字を定期的に復習する。

→ 暗記中心の漢字テストだけでなく、日頃の学習や作文などで既習漢字を使えるようにする。

IV 国語科の授業改善策

1 自分の考えを筋道立てて話したり、相手の意図をつかみながら聞いたりすることができるようにするために

低 話す事柄の順序を考えさせるために、話し方・聞き方のポイントを教室に掲示し常に意識できるようにする。

聞いたことに対して、質問したり答えたりする場（朝の会のスピーチなど）を設定し、大事なポイントを意識して聞けるようにする。

中 聞き手を意識して話す順序を考えたり、文章に表したりするなどして、聞き手に分かるように話すことができるようにする。

メモを取りながら話を聞く活動を設定し、話し方による違いに気付かせる。

高 実際の場面で主体的に聞く練習をし、聞いたことをまとめたり、それに対する自己の考えを書いたりする時間を設定する。

2 自分の考えたことなどを文章全体の構成を考えて文章に書くことができるようにするために

全 「書くって楽しいね」を活用する。

低 文を書くことへの抵抗を少なくするために、基本的な文型「5W1H」をおさえ、短文を書かせる活動を取り入れる。また、句読点や「」などの記号を正しく使えるようにする。

中 書こうとするものの中心を考え、段落相互の関係に注意して文章を書くことができるよう指導する。「はじめ・中・終わり」の文章構成を意識して書くことができるように指導する。

高 誰に、何のために書く文章なのかをまず考えさせ、適切な表現方法で書くように指導する。「はじめ、中、終わり」の文章構成を常に意識させ、内容の中心を明確に記述できるようにする。また、筋道のある文章が書けているか推敲する習慣を付けさせる。

3 内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするために

全 朝読書や読書週間、読み聞かせなどを設定し、読書の時間を確保する。

低 大まかなあらすじなどを考えながら読むよう指導する。

中 文章構成や事実と感想との違いを押さえながら、内容を的確に読み取るようにさせる。また、友達の意見と比べ、文章の広がりや読むことの楽しさを味わえるようにする。

高 最初に段落や場面分けをして構成や順序を踏まえ、小見出しをつけさせる。そして、それぞれの段落の構成上の役割を考えることができるようにする。また、主題を考え、友達の意見と比べ、文章の広がりや読むことの楽しさを味わえるようにする。

4 文字の形や筆順に従って、文字を正しく書いたり、文や文章の中で活用したりすることができるようにするために

低 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書かせる。また、既習の漢字を文や文章の中で活用したりできるよう、繰り返し練習させる。

中 定期的に漢字テストや既習の漢字の復習課題を与えることで、反復練習ができるようにする。また、既習の漢字を文や文章の中で活用できるよう、繰り返し練習させる。ローマ字も定期的に復習させ、定着させる。

高 定期的に漢字テストや既習の漢字の復習課題を与えることで、反復練習ができるようにする。記憶した漢字の活用を促進するため、文章を書く指導の際、既習漢字を活用させ、漢字辞書など自ら調べて書けるような工夫をする。